

施策評価シート

評価年度	平成29年度	事業実施年度	平成28年度	施策主管次長名	福祉部次長 太田 寿恵広	
施策番号	55	施策名	みんなで助け合える福祉のまち		総合計画掲載頁	50
関係課名	長寿介護課、福祉課					

1. 施策の概要

施策の目的	対象	・市民 ・障がい者 ・高齢者	対象指標名		単位	H27実績	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
			①	人口	人	60,365	60,890	61,154	61,449	62,000
			②	障がい者の数	人	2,000	2,070	2,080	2,090	2,970
			③	高齢者の数	人	10,127	10,349	10,580	10,754	10,900
意図	障がい者や高齢者が安心して、住み慣れた地域で支え合う生活をしてもらう				成果指標名	①	ボランティア登録者数			
						②	市内の障がい者施設利用者数			
						③	自立支援給付の受給率			
						④	いきいきクラブ(旧老人クラブ)に加入している市民の数			

2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H27実績	H28計画	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
①	ボランティア登録者数	人	2,774	2,980	2,896	2,910	2,924	3,400
	指標設定の考え方と把握方法	地域で助け合う仕組みとして設定し、みよし市ボランティアセンター登録者数を社会福祉協議会から把握						
②	市内の障がい者施設利用者数	人	116	117	126	127	127	-
	指標設定の考え方と把握方法	施設サービスの利用状況として設定し、市内施設(しおみの丘他)の利用者数を福祉課で把握						
③	自立支援給付の受給率	%	18.1	18.1	18.5	18.5	18.5	-
	指標設定の考え方と把握方法	施設サービス(市民)の利用状況として設定し、自立支援法に基づく給付受給者数を福祉課で把握						
④	いきいきクラブ(旧老人クラブ)に加入している市民の数	人	3,531	4,000	3,390	3,450	3,500	5,000
	指標設定の考え方と把握方法	活動の中心的な役割を担う団体として設定し、社会福祉協議会から把握						

3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	・障がい特性を理解し、互いに支え合う意識の向上と、障がい者自身にも地域社会への自発的な参加を促す。 ・高齢者の孤立化を防ぐため、地域での見守り体制を整える。			
	行政	・ボランティア育成や活動しやすい環境づくり、障がい者支援のための環境整備を行う。 ・高齢者の社会参加のための環境整備、健康維持、支援のための人材確保及び育成を行う。			
達成度評価	近隣との比較	①本市のボランティア登録率(登録者数/人口)のH28年度実績は4.8%で、近隣10市との比較(高い順)では、2位の知立市5.7%に次いで3位。1位は刈谷市14.5%。 ②障がい者施設利用者は、近隣10市では人数把握を行っていないので、比較できない。 ③自立支援給付受給率のH28年度実績は18.5%で、近隣10市で把握している市(岡崎、碧南、豊田、安城)との比較(高い順)では、1位。2位は岡崎市18.2%。 ④いきいきクラブの加入率(クラブ加入者数/高齢者人口)のH27年度実績は27.7%で、近隣10市との比較(高い順)では、3位の西尾市28.7%に次いで4位。1位は碧南市35.6%。			
	過去3年間の実績との比較	①ボランティア登録者数のH28実績は2,896人で、H26まで減少傾向であったが、H27以降は増加傾向。[H25: 2,984人、H26: 2,679人、H27: 2,774人] ②障がい者施設利用者のH28実績は126人で、事業所が増えたこともあり増加傾向。[H25: 96人、H26: 97人、H27: 116人] ③自立支援給付受給率のH28実績は18.5%で、増加傾向。[H25: 14.5%、H26: 15.3%、H27: 18.1%] ④いきいきクラブの加入者数のH28実績は3,390人で、減少傾向。[H25: 3,719人、H26: 3,632人、H27: 3,531人]			
現状と課題	◆市ボランティアセンター登録者が更に増加するよう、社会福祉協議会と連携してボランティアの底辺拡大に繋がる効果的な事業の在り方(環境づくり)を検討する必要がある。◆障がいの種別や障がいの望むサービスが多様で、対応できる事業者や施設が不足している。また、障がいの年齢層が上がることに伴い、親亡き後の生活支援施設(グループホームなど)が不足し、その整備が必要である。◆高齢者数の増加とともに、要介護等認定者数や認知症認定者数が増加しているため、高齢者を地域で支える体制づくりとしての地域包括ケアシステムの早期の構築が必要である。				
今後の取組の方向性及び次年度の取組	◆障がいのある方も健常の方も普通に暮らせる地域づくりを目的とした「みよし市障がい者自立支援協議会」を中心に、問題提起や取り組みに対する新たな提案、情報の共有化など、障がい者、事業所、行政間の連携、協力、支援体制の向上を図る。◆障がい者の実態とニーズを把握し、不足する社会資源の充実を図る。◆高齢者の積極的な社会参加、生きがい対策の支援として「いきいきクラブ(旧老人クラブ)活動」、「生活支援体制整備事業」など「自助」「互助」の取り組みの推進を図る。 (30年度の取組) ◆みよし市障がい者自立支援協議会が主催する障がいの理解に関する講演会の支援。また同協議会が実施する障がいの種別ごとのニーズ分析とその対応策の検討を支援する。◆本市の障がい者福祉の指針となる「第4期障がい者福祉計画」を策定する。◆日常生活圏域(第2層)ごとに生活支援コーディネーターを置き、高齢者と地域の支援者・活動者やサービス提供事業主体を結び付け、生活支援体制の充実と強化を図る。				
市民意識	重要度	高い	満足度	高い	平成28年度市民アンケート調査による